

学校経営推進費 評価報告書（2年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 難関海外大学への進学実績 ・ 国公立大学・難関私立大学への進学者の増加 ・ 外部機関の客観的学力診断テストや学校教育自己診断によるスコアの向上
計画名	21世紀型の新しい学校！計画 volume. 4

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>2、グローバル時代に対応する教育システムの開発 (2)ロジカル・クリティカルシンキングの理解・実践 ア、スキルを学ぶための思考ツールの開発を行う。 イ、授業方法として、ディベートやプレゼンなどを行う。</p> <p>3、進路・生徒指導の強化 (1)進路実現のために必要なシステムの開発 イ・ウ、国内の国際系大学、海外大学への進学システムを構築する。</p>
事業目標	<p>平成28年度よりスタートした「国際科（グローバル科）」について、特に高校2年次の「総合的な学習の時間」において、海外大学進学へ向け、世界の最先端の教育を行うことが必須となる。方法としては以下のとおりである。</p> <p>①最先端のActive Learningが実施できる教室の設定。 ②Design ThinkingやTOK(Theory of Knowledge)などを基盤にした新しいカリキュラムの構築。 ③上記②を実施するための指導法・研修体制の確立。 この取組みをまずは本校の国際科・普通科に、そして大阪府全体に還元できるようにパッケージ化する。</p>
整備した 設備・物品	<p>ウチダ ワークテーブル IP-2 6545FN型 24台 ウチダ MF7/FM-265 33脚、教育素材 EVATM 30 別製 40個、 日本ファイリング 複式書架用木製側板 10枚 日本ファイリング 可動式展示架 3台 ウチダUL-35 スツール三日月型Φ900 ビニールレザー製9台 ウチダUL-34 スツール丸型Φ900 ビニールレザー製 1台 日本ファイリング窓下書架単式3段4連 2台 日本ファイリング 窓下PCデスク5人用 1台 日本ファイリング窓下閲覧机4人用仕切り付 1台</p>
取組みの 主担・実施者	<p>校長・教頭・首席を中心に、プロジェクトチームを立ち上げる。 ※「骨太英語」プロジェクトチームと密接に関係する「グローバル人材育成チーム」を立ち上げ、学年・教科横断的な組織を構築する。</p>
本年度の 取組内容	<p>○「グローバル科」設置のポイントとなる高2時の、「総合的な学習の時間」を「21世紀型スキル」と題して、Design Thinkingを中核としたActive Learning「箕面メソッド」を実施する。適宜総合小委員会を行い、中身の検討・改善を行う。</p> <p>○骨太の英語力養成事業、及び、SETの配置がそれぞれ最終年であり、SETの配置もと連携させ、iBT特設レッスンで授業のプロトタイプが構築できているが、英語のみならず、他の教科で実施できるように、効果的な引き継ぎ方法などを検討する。</p> <p>○引き続き、双方向性のある授業展開のカリキュラム・教材の開発を推進する。 教員個人の取り組みを教科全体で考える体制に移行できるよう働きかけをしていく。</p> <p>○改修した図書室の有効利用を推進するための環境づくりを行う。</p>
成果の検証方法 と評価指標	<p>国公立大学への現役合格者：平成28年度38名→平成29年度45名に増やす。 難関私立大学の現役合格者：平成28年度260名→平成29年度280名に増やす。 学校教育自己診断（教員）：教員同士の信頼関係…平成26年度35%→平成29年度70%に増やす。 難関海外大学への現役合格：開校以来0名→平成29年度1名に増やす。（難関校以外+2名）</p>
自己評価	<p>○作成した「箕面メソッド」を年間通して実施できた。</p> <p>○改修した図書室では、今まで以上に双方向性のある授業を展開することができている。英語科だけでなく、国語・地歴公民・家庭・保健体育・情報などでも授業実施（実証実験）できた。</p> <p>○カリキュラム開発は、教科全体に広がっていないが、教科で考える土壌はできてきた。</p> <p>国公立大学への現役合格者：平成28年度39名→平成29年度48名 (◎) 難関私立大学の現役合格者：平成28年度319名→平成29年度210名 (△) 学校教育自己診断（教員）：平成28年度50%→平成29年度46.7% (○) 難関海外大学への現役合格：平成28年度2名→平成29年度2名 (○) 注) 難関大学については様々な指標があり、昨年度アメリカ、今年度はオーストラリアの大学である。</p>
次年度に向けて	<p>○「総合的な学習の時間」において、Design Thinkingを中核としたActive Learning「箕面メソッド」が年間通して実施できた。H30年度、普通科にも広げるための土台作りを進めていく。</p> <p>○骨太の英語力養成事業が終了したため、引き継ぎ方法の確立等の校内の自助努力が必要不可欠である。そのことから英語科を中心とし、教科の基本方針の完成をめざす。</p> <p>○引き続き図書室の改修に基づく成果を、大阪府に還元できるよう、授業公開などを実施する。また、他府県からの視察を利用して、大阪府の成果を紹介していく。</p> <p>○取組みの主担実施者を、管理職から首席中心の教員に移行できるように準備できた。 今後は、教諭がチームとして取り組みを継続していけるよう、分掌の再編とあわせて対応をすすめる。</p>